

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

化膿性脊椎炎の保存治療における成績不良因子の検討

2. 研究の対象患者

当院にて化膿性脊椎炎の治療が行われた18歳以上の患者さん

3. 研究の対象期間

2005年4月1日～2017年8月31日

4. 研究の概要

化膿性脊椎炎は1年間で10万人あたり2.4人の発症率と推測されている。抗生剤による保存治療が治療の主体である。近年低侵襲手術の普及に伴い化膿性脊椎炎に対する手術適応が拡大しつつあるが、その手術適応については明確なエビデンスは無い。本研究では当院で保存治療を行った化膿性脊椎炎の患者を対象に保存治療成績不良例における成績不良因子の検討を行うことで、化膿性脊椎炎に対する漫然とした抗生剤加療でなく、手術加療へと切り替えるべき症例を検討するものである。

5. 研究実施予定期間

2017年9月20日～2018年12月1日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：識別コード、年齢、性別、生年月日、身長、体重、BMI、合併症、入院日、退院日、入院期間、入院前ADL、退院時ADL、神経学的異常の有無、既往歴：DM、肝硬変、腎不全（eGFR<60）、ステロイド使用歴、悪性疾、背部または頸部外傷歴の有無、最終観察日、入退院日、転帰、初診時症状（背部痛または頸部痛、悪寒、発熱、椎体骨折）、入院時体温、椎間板穿刺施行、血液培養有無、起炎菌、症状発症から治療開始までの期間、使用抗生剤点滴、使用抗生剤内服、点滴抗生剤期間、内服抗生剤試用期間、臥床期間、コルセット着用有無、脊椎感染範囲、腸腰筋膿瘍の有無、硬膜外膿瘍の有無、解熱までの期間、化膿性脊椎炎に対する手術の有無、血液学的検査（初診時）：RBC、Hb、WBC、New（%）、Lym（%）、血液生化学的検査（初診時）：BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、GOT、GPT、LDH、CK、ALP、CRP、TP、ALB、Na、K、Cl、Ca、血液学的検査（抗生剤投与後1週間）：RBC、Hb、WBC、New（%）、Lym（%）、血液生化学的検査（抗生剤投与後1週間）：BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、GOT、GPT、LDH、CK、CRP、TP、ALB、Na、K、Cl、Ca

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先） 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・ 研究責任者： 整形外科 鈴木 健司
- ・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)